

## 世界に2つのシオンとエルサレムがある イスラエル国エルサレムと東の地（日の出する国 日本）

私は、イザヤ書19章25節（神は祝福して言われた。私の民エジプト、私の手で造ったアッシリア、承継者イスラエルに祝福があるように）から、日本とイスラエルの失われた十部族（ユダとベニヤミン族を除く）とエジプトとアッシリア（メソポタミア・ペルシャ）のつながりに興味を持ちました。また日本語とヘブル語に発音と意味の同じものがたくさんあることを知り、古代ユダヤ人と日本のつながりを確信し、日本の神社・寺を訪問・調査しました。

イスラエル ヘブライ大学ベンアミン・シロニ一名誉教授は、著書「ユダヤ人と日本人—成功するアウトサイダー」の中で「ユダヤ人と日本人ほど全く異なり、ほとんど正反対の関係にある二つの社会を、他に想像するのは難しい。一方は世界の隅々にまで散らされ、一方はその国土で、ほとんど途切れるとなく歴史を紡いできた。一方は地理的な異種混合であり、一方は文化的に、言語的に単一である。一方に国際的な経験が豊かで、一方は島国に住む人々メンタリティーを持つ。一方は宗教的、道徳的に厳格であり、一方は集団的、美学的価値観を持つ。しかしこれら二つの民族の間には、驚くべき類似点もある。そこには普通に考えられる類似と相違の範疇を超えた何かがあり、研究に値する。」と述べられています。

またイスラエルのジャポテンスキー賞（文化勲章）の受章者アビゴルド・シャハン博士著「失われた十部族の足跡」の中で、以下のように記述しています。

紀元前722年北イスラエル（十部族—ユダ・ベニヤミン族を除く）はアッシリアに滅ぼされ、多くの人が捕虜としてアッシリア東部（メソポタミア・ペルシャ）に移住させられ、その後アッシリアとメディアとの戦争が始まり、その混乱に乗じて東の地（日の出る所）を目指して脱出した。当初は最短の北ルート（アフガニスタン、タクラマカン砂漠、ゴビ砂漠、モンゴル、中国、朝鮮）を取った人々は、夏には焼け付く砂、冬の夜中には凍りつく寒さなど、道中多くの困難と出会いながらも、南ルートの兄弟たちよりも数百年早く目的地に到達していた。南ルートのうち生き残った者たちが、日本の対岸、朝鮮半島に到着したころには、北ルートの兄弟たちは、すでに日の昇る国にしっかりと根付いて支配しており、新しく到着した者たちの苦境を見て援助をしてくれた。北ルートを取った十部族の軍勢の最初の者たちは、日本神話に登場する人物スサ（スサノオ？）を隊長とする先遣隊と共に、紀元前660年ごろに日本に到着したと思われる。スサの孫が短期間支配したが、その後列島の一部の支配は、スサの姉妹であるアマテラスの孫の手に移った。新支配者は、この支配権の譲り受けをきっかけにして、新天地の占領と定住を本格化させた。彼の後、紀元前585年頃、神武という指導者を先頭に、北ルートの大軍勢が老人、女性、子供たちを引き連れてやってきた。彼は日本全土を占領し、日本の天皇家を設立した。ここまで全て、日本に押し寄せてきた十部族の第一波である。彼らの歴史、物語、島の占領、占領した地域を、彼らの故郷であるイスラエルの地の地名で呼んだことなどは、神話的な雲霧に包まれて、日本の古代伝承の中に織り交ぜられている。日本の古代書である古事記と日本書紀では、この時代のことを「神代の時代」と呼ぶ。しかし「神」と呼ばれる者たちも、その性質は人間そのものである。彼らは人間と同じように小さな喜びを喜び、そして時には人間同様死んでしまう。彼らは、神話によれば「天」から降ってきた最初の人々なのである。

第2波紀元2世紀・仲哀天皇の時代、秦氏指導者の一人 太秦公宿禰（ウスマサノキミスクネ）が突然日本にやって来た。彼の名の音は、ヘブライ語「我々の危機の時の旅路の力」という意味に聞こえる。数年後応神天皇の時代に「ユズキ（弓月）王」という別の秦氏の指導者が来日し帰国し、その後18680人もの同族を連れて戻ってきた。紀元5世紀には阿知使主（アチノオミ）という名の秦氏の貴族集団が渡来し、紀元7世紀半ば皇極天皇の時代（641-643）に秦氏の一群が渡來した。秦氏の信仰“八幡（ヤハタ）”はヘブライ語「ヤー・エハッド」つまり“唯一の主”という意味に聞こえる。シャハン博士は日本神話による天地創造物語も私の考えでは聖書の物語に等しい。それどころか日本の天地創造物語はユダヤ教伝承の考え方と様々な面においてその詳細までもが一致しているとユダヤ教のミドラッシュ（聖書注解）を使われ説明されている。天地創造の後、日本の伝承では根源的な神である「ヌシ（アメノミナカヌシノカミ）ともう二柱の三つの聖なる存在が誕生する。イスラエルの伝承であるミドラッシュでは、神は世界の諸民族とイスラエルの為に二人の司をたてられたとある。“ミカエル”と“ガブリエル”である。また数々の伝承に登場する“セラピム”も天使であり、二人のセラピムが神の相談役である。神が人を創造されようとした時「彼らに言われた。我々にかたどり、人を造ろう」と。高天原の三つの聖なる存在と、聖書の神と二人の司の主で計三と一致する。

日本の最初の島オノゴロ島はヘブル語では「アヌー・ナダール」日本語では「わたしは住むであろう」という意味になる。オノゴロ島と同じ話がバビロニア タルムードにソロモン王の時代に書かれている。伝説上の大きな木、“イザナギ”左回り“イザナミ”右回り、アナニヤシと言ったヘブル語、その意味は「結婚します」。イザナギが宮殿を建てた「ヤヒドロ」はヘブル語では「ヤー・ポー・ヤラドゥヌー」意味は「主と私たちはここに降り立ったか」になる。

その他の神の名、地名、神器の呼称の類似性として

- ・アマテラス（日本語） アマテラシュ アマット・カーシュ カーシュ・ウマット（ヘブル語）  
民族の頭（意味）
- ・イズモ（日本語） イー・ゼー・マー（ヘブル語） その島はどこだ（意味）
- ・オオクニヌシ（日本語） アヒーヌー・ナスィー（ヘブル語） 我々の栄光は頭（意味）
- ・日本の三種の神器（鏡・勾玉・剣）とユダヤ教の関係性

鏡：聖なる鏡→会見の天幕入り口の鏡 ミドラッシュによれば

勾玉：宝石 三日月型 ヘブル語文字の形・ヨッド（主・神） ヤ・サカ（主は隠れ家）

剣：聖なる剣 ダビデがペリシテ人ゴリアテの戦いの勝利の剣

- ・高千穂（日本語） タカ・ツイヨン（ヘブル語） シオンの高台（意味）
- ・ヤマト（日本語） ヤー・マウト ウマト・ヤ（ヘブル語） 主の民族、神の民（意味）
- ・神武天皇即位の年 キノエノトラの年（日本語） トーラー・ヤ・コノー（ヘブル語）  
主のトーラーの護符（意味）

一番最後に重要なスサノオのイズモ族と神話の登場人物であるニニギの子孫との戦いは、ガディ（ガド）の子孫とヨシュアの子孫との戦いであった（申命記33章21節モーセの話 ガドは最良の土地をみつける）と書かれている。また一部の人々はイスラエル回帰を主張し、そのままアメリカ大陸に渡っていったということである。

以上を証明すべく各国の博物館、遺跡、神殿、教会などを訪問調査し、「日本文化もとをたどれば聖書から」（日本語）、その改訂版として日英「日本の神仏はイスラエルの神」、「四大文明の神は聖書の

神」（日本語・英語）、「古代ユダヤ人は日本に来ていた」（日本語・英語・ポーランド語）を出版、シャハン博士のご尽力でイスラエル国立図書館及びイスラエル国立大学図書館に収蔵されました。その時博士から、「君の名は永遠に残る。それは国立図書館が地下 120m の核シェルターになっているからだという意味と、100 年か 150 年後『いつから宗教対立がなくなったか』という研究が始まると最終的にこの本にたどりつくからだ」と言ってくださいました。2019 年 6 月 25 日研究結論本として、シャハン博士「サンバティヨン川と闇の山々に消えた十部族」、榎浩二「世界文化は聖書から—我々は一つの家族一」を日本語で共同出版させていただきました。

紀元前 5 世紀のギリシャの歴史家ヘロドトスの書を読むと、ギリシャの神々（ポセイドンとディオスクロイを除く）はすべてエジプトの神々であると書いてあり、有名なヘラクレスも 5 代目でその源はエジプトの神であるとあり、ギリシャ文化はエジプト文化のコピーだと気づきました。創世記 6 章 1-5 節に「神の子らや神の子と人間の娘との子供ができる頃も、その後にもネフィリム（巨人）が地上にいた。これらは昔の勇士であり、名のある者たちであった」と記されています。ギリシャ人がエジプト王の傭兵として働き、その文化を持ち帰ったものが、ギリシャ文化となっています。エジプトのピラミッド・ルクソール神殿・王家の谷の巨大さとアテネを比較すれば納得できます。アレキサンダー大王（紀元前 356-323 年）も突然マケドニアから出ましたが、アケメネス朝ペルシャ（紀元前 550-330 年）の領土図は、マケドニア、トルコ、シリア、エジプトからインダス川までになっています。おそらくペルシャ軍の傭兵として働いていたマケドニアの軍が反乱を起こしたと考えるのが普通ではないでしょうか。そしてそれがその後のローマ帝国につながったということではないでしょうか。ヘロドトスは、ユダヤ人、アラブ人が守る割礼、動物燔祭、祭司の祓（みそぎ）、水で清める、神が羊で表される、祭司・王は坊主、お辞儀、目上の人には道をゆづる、清潔好き、生年月日による運命、医師の専門化はすべてエジプトがルーツであることを語っています。それらには今の日本人が守っているものとの共通性を感じます。詳しくは 2019 年 6 月に出版した「世界文化は聖書から」に書いております。

2020 年 3 月ルクソール カルナック神殿（エジプトで最大の神殿）の至聖所にて、石造りの動物燔祭台を発見しました。2020 年 12 月 29 日に放映された「たけしの新世界七不思議」というテレビ番組でツタンカーメン王墓に牛の燔祭を神に献げる画が紹介されていました。また、ルクソール王家の谷の「王の棺の部屋の天井画にエジプトの母神ヌトが描かれ、その体中に「大」という日本漢字が散りばめられており、他の壁画にも「大」が描かれていることを確認致しました。古代エジプトに、日本の漢字「大」が何故存在するのでしょうか。八代山蔭神道靈的後継者の表氏によると出雲大社の日御碕の先の経ヶ島のほこら（みそぎをした神官しか入れない）を開けると、漢字「大」が書かれている、これは冥界を表す字と聞いていると話してくださいました。伊勢神宮の神は「大一」で表されています。京都では大文字焼として「大」の字を表現しています。祇園祭もユダヤのシオン祭と開催時期が合致しております。沖縄県うるま市（4 世紀のローマコインが発見されている）藪内遺跡（6500 年前の土器が発見されている）を代々靈的に守り続けている“かっちん大屋”（十六菊花弁と日の丸がある）竹中兄より、先祖はユダヤから來したこと、また、沖縄語で「大」は「ウフ」と発音するが、先祖からこれはヘブル語だと教えられてきたと 2020 年 12 月 11 日にお会いした際に直接お聞きしました。沖縄の初代の王の生母は大里が出身で「大」がついています。沖縄にはほかにも大高や、大島、大城と「大」のつく地名があります。エジプトの女性らしき人が祈っている所に赤字で「大」がたくさん描かれている絹織物も京

都で発見されています。

エジプト、イスラエルとはるか東にある国「日本」。エジプトの最高神ホルスは東の空（日の昇る所）の最高の「主」と位置づけられています。イスラエル国立博物館の国宝「死海写本」の入り口に日々の祈りが書かれ「太陽に日々の祈りをささげた」と書かれています。古代世界に於いて太陽の昇る所（日の昇る所）東の地は聖なる場所として特別に認識されていたと思われます。

私がこれらの研究を始める前に現イスラエル国名誉領事三宗博士からアドバイスを受けました。もし、ユダヤ人の学者、ラビ、イスラエル大使など、このような方々があなたに聖書を読んでいるかと質問をされたら、すぐに読んでいませんと答えなさい。この質問の意味は旧約聖書 70 万語を記憶しているかと聞いているから。ユダヤ人は子供ができると言葉を教え、文字を教え、トーラー（旧約聖書）を記憶させます。丸覚えは無理なので、まだ見たこともないことを映像化し、映画を造って聖書のストーリーを頭の中に覚えさせていくと教えてくださいました。ユダヤ人は聖書以外にもミドラシ（聖書注解書）、タルムード（モーセが伝えたもう一つの口伝律法）、ゾハール（ユダヤ教神秘思想の中心本、トーラーの注解書）、カバラ（ユダヤ神秘思想）なども読んでいます。

日本神道 神楽の最後に舞台の中心に大きく出される巻物の言葉は神代文字で読みませんが、「アチマリカム」と発音すると先の表先生から教えられました。その言葉はヘブル語「アージ・マリケーム」と通じ、意味は「神様どうぞよろしくご統治くださいませ」ということがわかりました。

本題にはいりますが、イスラエル国歌を読んで、自分の思いではシオン・エルサレムといえば、イスラエル国のシオン・エルサレムだと永きに渡って信じてきたのですが、この国歌を改めて読んでシオンは東の地にもあり、新しいエルサレムも存在することがわかりました。ヘブル語で聖書を読んでいる人々は普通にこのように歌えることに気づき、ヘブル語原典聖書からの翻訳に意訳・誤訳があるので考え、聖書をチェックしてみました。

## 世界に2つのシオンとエルサレムがある イスラエル国エルサレムと東の地（日本）

### ① 問題提起 イスラエル国歌

心の奥底に秘めた  
ユダヤ教徒の魂が切望するは  
眼差し向かう東の地 シオン

二千年の我等の望み  
今だ失われず  
祖国にて自由を勝ち取らん  
シオンの地 そして エルサレム

シオン・エルサレムといえばイスラエル国エルサレムにあるシオン山しかないと信じていた者ですが、上記の歌詞を読むと 2000 年の間ユダヤ教徒の魂が切望するのは東の地シオン(the ends of the east) ということになる。

ヘブル語で聖書を読んでいる人達（ユダヤ人）は違和感なく普通に「東の地 シオン」とこの国歌を歌えると気づいた。ヘブル語聖書からの翻訳に意訳・誤訳の可能性が有るのではないか。

### シオンとエルサレムの定義

イザヤ 2:3

「おほくの民ゆきて相語いはん 率われらエホバの山にのぼりヤコブの神の家にゆかん 神われらにその道ををしへ給はん われらその路をあゆむべしと そは律法はシオンよりいでエホバの言はエルサレムより出べければなり」（文語訳）

「多くの民が来て言う。『さあ、主の山、ヤコブの神の家に上ろう。主はご自分の道を、私たちに教えてくださる。私たちはその小道を歩もう。』それはシオンからみおしえが出、エルサレムから主のことばが出るからだ。』

### 以上の聖書によれば

シオンとは神の律法 御旨を崇むるところ (worship the law)

エルサレムとは神と共に生きる町 尊き都 (leans of the Lord) と考えられる。

### ⓐ 2つのシオン、エルサレムがあるのか

イスラエル国歌によればシオンは2つあることになる—現エルサレムのシオンと眼差し向かう東の地シオン

英語 the ends of the east もしくは the land of sunrise になる

「祖国東の地シオン」と「そしてエルサレム」

・ヘブル民族を「2つ」に分けている聖書箇所を調べてみる

エゼキエル書 37:16—ユダとヨセフ(文語)、ユダとエフライムの杖ヨセフ (新改訳)

「人の子よ汝一片の木を取てその上にユダおよびその臣なるイスラエルの子孫と書き又一片の木をとりてその上にヨセフおよびその臣なるイスラエルの全家と書べし是はエフライムの木なり」(文語)  
「人の子よ。一本の杖を取り、その上に、『ユダと、それにつくイスラエル人のために』と書きしるせ。」

もう一本の杖を取り、その上に、『エフライムの杖、ヨセフと、それにつくイスラエルの全家のために』と書きしるせ。」(新改訳)

エレミヤ書 33:14-16 イスラエルの家とユダの家

「エホバ言たまはく視よ我イスラエルの家とユダの家に語りし善言を成就ぐる日きたらん その日その時にいたらばわれダビデの爲に一の義き枝を生ぜしめん彼は公道と公義を地に行ふべし その日ユダは救をえエルサレムは安らかに居らんその名はエホバ我儕の義と稱へらるべし」(文語訳)

「見よ。その日が来る。一主の御告げーその日、わたしは、イスラエルの家とユダの家に語ったいつくしみのことばを成就する。その日、その時、わたしはダビデのために正義の若枝を芽ばえさせる。彼はこの国に公議と正義を行う。その日、ユダは救われ、エルサレムは安らかに住み、こうしてこの町は、『主は私たちの正義』と名づけられる。」(新改訳)

新しい契約の民のレベルの高さ =参考= エレミヤ 31:31-34 心に書き記す 汝エホバをしれとはいわじ

「エホバいひたまふ みよ我イスラエルの家とユダの家とに新しき契約を立つる日きたらん この契約は我彼らの先祖の手をとりてエジプトの地よりこれを導きいだせし日に立しところの如きにあらず 我かれらを娶りたれども彼らはその我契約を破れりとエホバいひたまふ 然どかの日の後に我イスラエルの家に立んところの契約は此なり 即ちわれ我律法をかれらの衷におきそ の心の上に録さん我は彼らの神となり彼らは我民となるべしとエホバいひたまふ人おの其隣とその兄弟に教へて汝エホバを識と復いはじそは小より大にいたるまで悉く我をしるべければなりとエホバいひたまふ我彼らの不義を赦しその罪をまた思はざるべし」(文語)

「見よ。その日が来る。一主の御告げーその日、わたしは、イスラエルの家とユダの家とに、新しい契約を結ぶ。その契約は、わたしが彼らの先祖の手を握って、エジプトの国から連れ出した日に、彼らと結んだ契約のようではない。わたしは彼らの主であったのに、彼らはわたしの契約を破ってしまった。一主の御告げー彼らの時代に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこうだ。一主の御告げーわたしはわたしの律法を彼らの中に置き、彼らの心にこれを書きしるす。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。そのようにして、人々はもはや、『主を知れ』と言って、おの おの互いに教えない。それは、彼らがみな、身分の低い者から高い者まで、わたしを知るからだ。一主の御告げーわたしはかれらの咎を赦し、彼らの罪を二度と思い出さないからだ。」(新改訳)

イザヤ 11:12 イスラエルの散らされた者 ユダの追い散らされた者を集められる

「エホバは國々の爲にはたをたててイスラエルの逐やられたる者をあつめ地の四極よりユダの散失たるものを集へたまはん」(文語訳)

「主は、国々のために旗を揚げ、イスラエルの散らされた者を取り集め、ユダの追い散らされた者を地の四隅から集められる。」(新改訳)

ヨハネ 10:16 ユダヤ人以外の他の羊 ほかの羊 一つの群 ひとりの牧者になる

ユダヤ人以外の他の民族がいることになる

「我には亦この檻のものならぬ他の羊あり、之をも導かざるを得ず、彼らは我が聲をきかん、遂に一つの群ひとりの牧者となるべし。」(文語訳)

「わたしにはまた、この囲いに属さないほかの羊があります。わたしはそれをも導かなければなりません。彼らはわたしの声に聞き従い、一つの群れ、ひとりの牧者となるのです。」（新改訳）

#### ヘブル 8:8 イスラエルの家とユダの家との新しき契約を結ぶ日

「然るに彼らを咎めて言ひ給ふ『主いひ給ふ「視よ、我イスラエルの家とユダの家とに、新しき契約を設くる日來らん。』（文語訳）

「しかし、神は、それに欠けがあるとして、こう言われたのです。『主が、言われる。見よ。日が来る。わたしが、イスラエルの家やユダの家と新しい契約を結ぶ日が。』』

#### 小結論

- ①イスラエルの家（十部族）とユダの家（ユダ族、ベニヤミン族）の2つの表現がある  
イスラエルの家（十部族）と同じ表現としてヤコブの家（イザヤ書）やヨセフの家（ゼカリヤ書）とも表現されている。
- ②エゼキエル書 37:16 はユダとエフライムになっているが、エレミヤ書 33:14、イザヤ書 11:12、  
ヘブル書 8:8 ではイスラエルの家とユダの家と順番が逆になっている。
- ③ユダの家（現在イスラエル国）と東の地極東シオン（イスラエルの家々）について それは日本とか考えられない。
- ④エゼキエル書 37:21 イスラエル人をその行っていた諸国間から連れ出し、彼らを四方から集め、  
彼らの地に連れて行く　彼らの地とは日本では
- ⑤シオン エルサレムの定義からすると、イスラエルの家とユダの家にそれぞれシオン・エルサレムがあっても不思議ではない。

## 東の地

イザヤ 41:1,2 たれか東より人をおこししや もろもろの国を服せしめ

「もろもろの島よわがまへに黙せ もろもろの民よあらたなる力をえて近づききたれ 而して語れ われら寄集ひて諭らはん たれか東より人をおこししや われは公義をもて之をわが足下に召し その前にもろもろの國を服せしめ また之にもろもろの王ををさめしめ かれらの劍をちりのごとくかれらの弓をふきさらるる藁のごとくならしむ」(文語訳)

「島々よ。わたしの前で静まれ。 諸国の民よ。新しい力を得よ。近寄って、今、語れ。

われわれは、こぞって、さばきの座に近づこう。

だれが、ひとりの者を東から起こし、彼の行く先々で勝利を収めさせるのか。

彼の前に国々を渡し、王たちを踏みにじらせ、その剣で彼らをちりのようにし、

その弓でわらのように吹き払う。」(新改訳)

イザヤ 41:25 我が名をよぶもの東よりきたらしむ(文語)日の出る所からわたしの名を呼ぶ(新改訳)

「われ一人を起して北よりきたらせ我が名をよぶものを東よりきたらしむ 彼きたりもろもろの長をふみて泥のごとくにし陶工のつちくれを踐がごとくにせん」(文語訳)

「わたしが北から人を起こすと、彼は来て、日の出る所から、わたしの名を呼ぶ。彼は長官たちをしつくいのように踏む。陶器師が粘土を踏みつけるように。」(新改訳)

イザヤ 45:15 かくれています神(文語) あなたご自身を隠す神(新改訳)

「救をほどこし給ふイスラエルの神よ まことに汝はかくれています神なり」(文語訳)

「イスラエルの神、救い主よ。まことに、あなたはご自身を隠す神。」(新改訳)

イザヤ書 24:15 この故に汝ら東にてエホバをあがめ(文語) 東の国々で主をあがめ(新改訳)

「この故になんぢら東にてエホバをあがめ 海のしまじまにてイスラエルの神エホバの名をあがむべし」(文語訳)

「それゆえ、東の国々で主をあがめ 西の島々で、イスラエルの神、主の御名をあがめよ。」(新改訳)

イザヤ 43:5 なんぢの裔を東よりきたらせ(文語) 東から、あなたの子孫を来させ(新改訳)

「懼るるなかれ我なんぢとともにあり 我なんぢの裔を東よりきたらせ 西より汝をあつむべし」(文語訳)

「恐れるな。わたしがあなたとともにいるからだ。わたしは東から、あなたの子孫を来させ、西から、あなたを集める。」(新改訳)

イザヤ 19:25 エジプト、アッシリア、イスラエルの神

「萬軍のエホバこれを祝して言たまはく わが民なるエジプトわが手の工なるアツシリヤわが産業なるイスラエルは福ひなるかな」(文語訳)

「万軍の主は祝福して言われる。「わたしの民エジプト、わたしの手でつくったアッシリヤ、わたしのものである民イスラエルに祝福があるよう。」(新改訳)

エジプト 最高神ホルスは東の空のマスター(主)

太陽神の格 朝・昼・夕では朝(日の昇る) 太陽が最高神

黙示録 7章 2節 もう一人の御使いが生ける神の印をもって、日の出るほうから上がってきた

(新改訳)

(b) 祖国 (our land) は東の地か?

祖国東の地シオンとは そしてエルサレムとは? 「新しき契約」と「新しき天と地を創造」  
—新しい契約—**新しいエルサレム 創造**

エレミヤ 31:31-34 イスラエルの家とユダの家との新しい契約 しかし説明はイスラエルの家との  
契約を説明している

「エホバいひたまふみよ我イスラエルの家とユダの家とに**新しき契約**を立つる日きたらん

この契約は我彼らの先祖の手をとりてエジプトの地よりこれを導きいだせし日に立しところの如  
きにあらず我かれらを娶りたれども彼らはその我契約を破れりとエホバいひたまふ 然どかの日  
の後に我イスラエルの家に立んところの契約は此なり即ちわれ我律法をかれらの衷におきその心  
の上に録さん我は彼らの神となり彼らは我民となるべしとエホバいひたまふ 人おのの其隣と  
その兄弟に教へて汝エホバを識と復いはじそは小より大にいたるまで悉く我をしるべければなり  
とエホバいひたまふ我彼らの不義を赦しその罪をまた思はざるべし」(文語訳)

「見よ、その日が来る。一主の御告げ—その日、わたしは、イスラエルの家とユダの家とに、**新しい**

**契約**を結ぶ。その契約は、わたしが彼らの先祖の手を握って、エジプトの国から連れ出した日に、  
彼らと結んだ契約のようではない。わたしは彼らの主であったのに、彼らはわたしの契約を破って  
しまった。一主の御告げ—彼らの時代の後に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこうだ。一主  
の御告げ—わたしはわたしの律法を彼らの中に置き、彼らの心にこれを書きしるす。わたしは彼ら  
の神となり、彼らはわたしの民となる。そのようにして、人々はもはや、『主を知れ』と言って、  
おのの互いに教えない。それは、彼らがみな身分の低い者から高い者まで、わたしを知るからだ。  
一主の御告げ—わたしは彼らの咎を赦し、彼らの罪を二度と思い出さないからだ。」(新改訳)

ヘブル 8:8 イスラエルの家とユダの家の新しい契約

「然るに彼らを咎めて言ひ給ふ 『主いひ給ふ「視よ、 我イスラエルの家とユダの家とに、 新しき  
契約を設くる日來らん。」(文語訳)

「しかし、神は、それに欠けがあるとして、こう言われたのです。『主が、言われる。見よ。日が来  
る。わたしが、イスラエルの家やユダの家と新しい契約を結ぶ日が。』」(新改訳)

イザヤ 65:17 新しき天とあたらしき地を創造する

「視よわれ新しき天とあたらしき地とを創造する 人さきのものを記念することなく之をその心に  
おもひ出ことなし」(文語訳)

「見よ。まことにわたしは新しい天と新しい地を創造する。」(新改訳)

イザヤ 65:18 **(新しい) エルサレムを造りて** (文語) **エルサレムを創造** (新改訳)

「然どなんぢらわが創造する者によりて永遠にたのしみよろこべ 視よわれはエルサレムを造りてよ  
ろこびとしその民を快樂とす」(文語訳)

「だから、わたしの創造するものを、いつまでも楽しみ喜べ。見よ。わたしはエルサレムを創造して喜びとし、その民を楽しみとする。」(新改訳)

「わたしの聖なる山、エルサレムに連れて来る」は新しいエルサレムでは?

イザヤ 66:20 エホバの家にたずさえきたるが如く 主の宮に携えて來ると同じである

「エホバいひ給ふ かれらはイスラエルの子輩がきよき器にそなへものをもりてエホバの家にたづさへきたるが如く なんぢらの兄弟をもうもろの國の中よりたづさへて馬 車 輜 駒駝にのらしめわが聖山エルサレムにきたらせてエホバの祭物とすべし」(文語訳)

「彼らは、すべての国々から、あなたがたの同胞をみな、主への贈り物として、馬、車、かご、駒馬、らくだに乗せて、わたしの聖なる山、エルサレムに連れて来る。」と主は仰せられる。「それはちょうど、イスラエル人がささげ物をきよい器に入れて主の宮に携えて來ると同じである。」(新改訳)

文語訳の如くは一英語 as、新改訳の同じは英語 like が使われていることから新しいエルサレムと考えられる

イザヤ 66:22 新しい天と新しい地

「エホバ宣給く わが造らんとする新しき天とあたらしき地とわが前にながくとどまる如く なんちの裔となんぢの名はながくとどまらん。」(文語訳)

「わたしの造る新しい天と新しい地がわたしの前にいつまでも続くように」(新改訳)

詩編 147:2 主はエルサレムを建てイスラエルの追い散らされた者を集める

「エホバはエルサレムをきづきイスラエルのさすらへる者をあつめたまふ」(文語訳)

「主はエルサレムを建て、イスラエルの追い散らされた者を集める。」(新改訳)

詩編 102:16-18 新しいシオンを築き、新しいシオンを建て

「エホバはシオンをきづき榮光をもてあらはれたまへり エホバは乏しきものの祈をかへりみ彼等のいのりを藐しめたまはざりき 來らんとするのちの世のためにこの事をしるさん 新しくつくられたる民はヤハウェをほめたたふべし」(文語訳)

「なぜなら、主はシオンを建て、その栄光のうちに現れ、窮した者の祈りを顧み、彼らの祈りをないがしろにされなかつたからです。次のことが、後の時代のために書きしるされ、新しく造られる民が主を賛美しますように」(新改訳)

詩編 102:18 「新しく造られる民」から考えると 16 節のシオンは新しいシオンと考えられる

詩編 22:31 生まれてくる民 注訳によると創造される民

「かれら來りて此はエホバの行爲なりとてその義を後にうまるる民にのべつたへん」(文語訳)

「彼らは来て、主のなされた義を、生まれてくる民に告げ知らせよう。」(新改訳)

詩編 65:5-8 地の果て果て 遠い大海の信頼の的です 地のすべての果て果てに住む者も、あなたの数々のしるしを恐れます 東の地の果は日本

「われらが救のかみよ 地と海とのもうもうの極なるきはめて遠ものの恃とするなんぢは公義によりて畏るべきことをもて我儕にこたへたまはん かみは大能をおび その權力によりてもうもうの山をかたくたたしめ 海のひびき狂瀾のひびき もうもうの民のかしがましきを鎮めたまへり されば極遠にする人々もなんぢのくさぐさの豫兆をみておそる なんぢ朝夕のいづる處をよろこび謳はしめたまふ」(文語訳)

「私たちの救いの神よ。

あなたは、恐ろしい事柄をもって、義のうちに私たちに答えられます。

あなたは、地のすべての果て果て、遠い大海の、信頼の的です。

あなたは、御力によって山々を堅く建て、力を帶びておられます。

あなたは、海のとどろき、その大波のとどろき、また国々の民の騒ぎを静められます。

地の果て果てに住む者も、あなたの数々のしるしを恐れます。

あなたは、朝と夕べの起こる所を、高らかに歌うようにされます。」(新改訳)

ヨハネ 4:21 サマリヤの女 イエスの宣言

あなたがたが父を礼拝するのは、この山でもなく、エルサレムでもない、そういう時が来ます

「イエス言ひ給ふ『をんなよ、我が言ふことを信ぜよ、此の山にもエルサレムにもあらで、汝ら父を拜する時きたるなり。』(文語訳)

「イエスは彼女に言われた。「わたしの言うことを信じなさい。あなたがたが父を礼拝するのは、この山でもなく、エルサレムでもない、そういう時が来ます。」

申命記 33:21 モーセ臨終前の予言 ガド族最良の地を見つけた(日本?) (紀元前 1200 年頃)

「彼は初穂の地を自己のために選べり 其處には大將の分もこもれり彼は民の首領等とともに至りイスラエルとともにエホバの公義と審判とをなこなへり」(文語訳)

「彼は自分のために最良の地を見つけた。そこには、指導者の分が割り当てられていたからだ。彼は民の先頭に立ち、主の正義と主の公正をイスラエルのために行った。」

ガドが選んだ最良の地 大将・指導者の分も割り当てられた。大将・指導者とは神なのでは。

モーセの時代においてはそれはエデンの園のような所ではないか

海に囲まれた島、水があふれ、四季がある日本では

=ヘブル語聖書からギリシャ語聖書、英語聖書を研究されている藤森三千雄先生の発見=

最初に藤森先生より教えていただいたのは、聖書の間違いの発見のことでした。

### ●聖書偽訳の預言

エレミヤ 8:8=旧約聖書 = 書記の偽りの筆

「汝いかで我ら智慧ありわれらにはエホバの律法ありといふことをえんや視よまことに書記の偽の筆之を偽とせり」(文語訳)

「どうして、あなたがたは、『私たちは知恵ある者だ。私たちには主の律法がある』と言えようか。確かにそうだが、書記たちの偽りの筆が、これを偽りにしてしまっている。」(新改訳)

ルカ 11:50-54=新約聖書 = イエスのパリサイ人と律法学者への叱責

「世の創より流されたる凡ての預言者の血、即ちアベルの血より、祭壇と聖所との間に殺されたザカリヤの血に至るまでを、今の代に糺すべきなり。然り、われ汝らに告ぐ、今の代は糺さるべき。禍害なるかな教法師よ、なんぢらは知識の鍵を取り去りて自ら入らず、入らんとする人をも止めしなり』此處より出で給へば、學者・パリサイ人ら烈しく詰め寄せて、様々のことを詰りはじめ、その口より何事をか捉へんと待構へたり。」(文語訳)

「それは、アベルの血から、祭壇と神の家との間で殺されたザカリヤの血に至までの、世の初めから流されたすべての預言者の血の責任を、この時代が問われるためである。そうだ。わたしは言う。この時代はその責任を問われる。』わざわいだ律法の専門家たち。おまえたちは知識のかぎを持ち去り、自分も入らず、入ろうとする人々をも妨げたのです。」イエスがそこを出ていかれると、律法学者、パリサイ人たちのイエスに対する激しい敵対と、いろいろのことについてのしつこい質問攻めとが始まった。彼らは、イエスの口から出ることに、言いがかりをつけようと、ひそかに計った。」(新改訳)

旧約聖書エレミヤ書 8 章 8 節 書記たちの偽りの筆 イエスキリストもパリサイ人・律法学者(律法の専門家達)の知識の鍵を取り去りてと偽訳を非難している。

●キリスト(メシア・メッシーバ)は天地創造前に生まれ、創造者となった。箴言 8:23-30

最高権威を与えられ、御使・天使を造られ、殺され、蘇られた。その流され続ける血によって、罪が贖われていることがヘブル語聖書に記されている。

箴言 8:23-30 キリスト(メッシーバ)は天地創造前に生まれ創造者となった

「永遠より元始より地の有ざりし前より我は立られ いまだ海洋あらず いまだ大なるみづの泉あらざりしとき我すでに生れ 山いまださだめられず 陵いまだ有ざりし前に我すでに生れたり 即ち神いまだ地をも野をも地の塵の根元をも造り給はざりし時なり かれ天をつくり海の面に穹蒼を張海にその限界をたて 水をしてその岸を踰えざらしめ また地の基を定めたまへるとき 我はその傍にありて創造者となり 日々に欣び恒にその前に樂み」(文語訳)

「大昔から、初めから、大地の始まりから、わたしは立てられた。深淵もまだなく、水のみなぎり源もなかったとき、わたしはすでに生まれていた。山が立てられる前に、丘より先に、わたしはすでに生まれていた。神がまだ地も野原も、この世の最初のちりも造られなかつたときに。神が天を堅く立て、深淵の面に円を描かれたとき、わたしはそこにいた。神が上のほうに大空を固め、深淵の源を堅く定め、海にその境界を置き、水がその堺を越えないようにし、地の基を定められたとき、わたしは神のかたわらで、これを組み立てる者であった。わたしは毎日喜び、いつも御前で楽しみ」(新改訳)

### ●藤森氏によれば

箴言 8:22 至高の神 はじめに御自身と同格の御子なるマッシーヴァ（メシア）をつくりたまえり

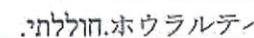
箴言 8:23 我を主権者に任命され、主権者の骨肉にて御使をおつくりになった。

御命令を完璧に遂行のため、神は同格の超能力を天使に授けられた。

原典聖書は ヘブル語 英語 皇子 頭 と書かれている  
主権者に御任命・イサクティ To Appoint メ レアシ Prince, The head,!!  
任命  

ルシファと墮天使は其の超能力を自らの固有能力と誤解し御皇子に反逆し追放される 黙示録 12:4

箴言 8:24、8:25 ここでは生まれると訳されているが原典（ヘブル語）に

 神、われを屠り給えり の文字がある

それは默示録 13:8 世の初めに屠られ給いし神の子羊の記述と一致する

御使方の注視の中・ 世の肇めに屠られ給ひし・神の羔・こひつじ・默 13 章 8 节

イエスが十字架刑にかかる前最後の晚餐でいわれた契約の血にあらわされているのでは

（マタイ 26:28、マルコ 14:23、ルカ 22:17）

至高神の教えに従い努力する者を御子の血潮をもって・恒に・咎を消し給う為と。

箴言 8:26、27 節 天地を造り給ふ前 ヘブル語聖書にて

天地創造に御着手の前に  御皇子の蘇り 

出エジプト 24:8 モーセ 血を民にふりかけ

默示録 7:14 湯立て神事 日本神道

出エジプト 24:8 契約の血

「モーセすなはちその血をとりて民に灌ぎて言ふ是すなはちエホバが此諸の言につきて汝と結たまへる  
契約の血なり」（文語訳）

「そこで、モーセの血を取って、民に注ぎかけ、そして言った。「見よ。これは、これらすべてのことば  
に関して、主があなたと結ばれる契約の血である。」

日本神道 湯立て神事（日本の神社では湯をたいて葉につけ民にふりかける）モーセのこの箇所からか？

### その証拠

默示録 7:14 小羊の血で洗って白くし

「我いふ『わが主よ、なんぢ知れり』かれ言ふ『かれらは大なる患難より出できたり、羔羊の血に己が衣  
を洗ひて白くしたる者なり』（文語訳）

「そこで、私は、「主よ。あなたこそ、ご存知です」といった。すると、彼は私にこう言った。「彼らは、  
大きな艱難から抜け出て来た者たちで、その衣を子羊の血で洗って、白くしたのです。」（新改訳）

默示録 13:8 世の肇めに屠られ給ひし神の子羊（文語訳）メシアは世のはじめにも屠られた

「凡て地に住む者にて、其の名を屠られ給ひし羔羊の生命の書に、世の創より記されざる者は、これを拜  
せん。」（文語訳）

「地に住む者で、ほふられた子羊のいのちの書に、世の初めからその名の書きしるされていない者はみな、彼を拝むようになる。」(新改訳)

※箴言 8 では Birth、Born と意訳している ダニエル書 12:10 身をきよめ白くし

● イザヤーイザヤ ナギットの事……日本の伊弉諾（イザナギ）に通じるのでは。

ヘブル語「ナギット」は日本語で祭司 神社の禰宜（ねぎ）

日本書紀上（岩波書店）P82 によれば「天神、伊弉諾尊・伊弉冉尊に語り曰わく、『豊葦原の千五百秋の瑞穂の地有り。汝往きてしらすべし』とのたまひて、廻ち天沼矛を賜ふ。」

聖書ルカ 21:20.21 において

エルサレムが敵の軍に囲まれたら市外に脱出せよとある。

預言者イザヤの時代、エルサレムはアッシリア軍に包囲された。

イザヤ 1 章で神はユダとエルサレムの裏切りを罰すると宣言、3 章でもエルサレム、ユダを罰する内容。2 章だけ突然エルサレム、ユダが高く掲げられる内容になり不自然—これは新しいシオン、エルサレム（東の地）の預言ではないかと藤森氏に尋ねる。

イザヤ 2:1-5 ヤコブの家の光 ヘブル語英語辞書によれば

ヘブル語の光 Aura オーラは光 light と共に Sunrise (日の出) という意味で  
この言葉は日の昇る所 (The land of sunrise) と解釈すべきとわかりました  
大切な預言の場所が抜けた翻訳になっている

「アモツの子イザヤが示されたるユダとエルサレムとにかくる言

すゑの日にエホバの家の山はもろもろの山のいただきに堅立ち もろもろの嶺よりもたかく舉り すべての國は流のごとく之につかん おほくの民ゆきて相語いはん 率われらエホバの山にのぼりヤコブの神の家にゆかん 神われらにその道ををしへ給はん われらその路をあゆむべしと そは律法はシオンよりいでエホバの言はエルサレムより出べければなり エホバはもろもろの國のあひだを鞠き おほくの民をせめたまはん 斯てかれらはその劍をうちかへて鋤となし その鎗をうちかへて鎌となし 國は國にむかひて劍をあげず 戰鬪のことを再びまなばざるべし ヤコブの家よきたれ我濟エホバの光にあゆまん」(文語訳)

「アモツの子イザヤが、ユダとエルサレムについて示された先見のことば。

終わりの日に、主の家の山は、山々の頂に堅く立ち、丘々よりもそびえ立ち、すべての国々がそこに流れてくる。多くの民が来て言う。「さあ、主の山、ヤコブの神の家に上ろう。主はご自分の道を、私たちに教えてくださる。私たちはその小道を歩もう。」それは、シオンからみ教えが出、エルサレムから主のことばが出るからだ。主は国々の間をさばき、多くの国々の民に、判決を下す。彼らはその剣を鋤に、その槍をかまに打ち直し、國は國に向かって剣を上げず、二度と戦いのことを習わない。来たれ。ヤコブの家よ。私たちも主の光に歩もう。」(新改訳)

オーラ ヘブル語英語訳 P9

イザヤ書 2:5 を藤森氏の指摘どおり光を日の昇る所と訳せば、

日の昇る国 神の栄光を表す国 ヤコブの末裔の住む国

は尊いとなるのではないか

日の昇る国は日本です

אֹרֶן<sup>1</sup> (ur) m - אֹרֶן<sup>2</sup>, pl. אֹרְנִים, אֹרְנִים lighted country, land of the sunrise, the east; fire, flame; enlightenment, revelation;

藤森氏の日本民族の使命に関する御予告の抜粋（要旨） 年代順にあらず

創世記 18:18,19 其の子孫の民族（日本では）

アブラハムを撰びたるは、其の直系に・世々・神の道を祝賀させ、終末の時代には、其の子孫の民族（日本）をして御大義の秀美を顕わす卓越せる自治の社会を興させ・萬国に・神の道（御論理）の偉大を学ばしめる為なり。

ヨハネ 10:16 汝ら（ユダヤ民族）のみならず、我が訓育する、いま一つの民族（日本）あり

日本

申命記 33:21 モーセの遺言・預言 紀元前 1200 年 シャハヌ教授によると日本先遣隊のガド族の隊長スサ(サウ?)に 我、ガド族を先頭に立て・最上の国土（日本？）を攻略させ、天子と全部族の領袖をして、神の国家を統治させたり。

詩編 102:18 新しく造られる民（日本では？）

ダビデ王よ、是の言明を記録せよ。向後、興す民（日本）をして・神の道を祝ふ国家を建てさせる事を

ホセア 1:11 紀元前 760 年頃 原文 out of その地を出立した 参照エレミヤ 3:18

南王国（ユダ）の賢者の群と、北王国（イスラエル）の龐大な末裔は、一人の長を立て、神の賜ひし国土（日本）を指して進み行けり。

イザヤ 37:31 下に根を張り上に実を結ぶの意味は→日本国家成立 参考ルカ 21:20-21

（エルサレムが軍隊に包囲されたら）

汝、同志を連れて、エルサレムを出立せよ、我、汝らを、麗しき国土（日本）に導き入れ、尊き国家を建てさせるなり。

イザヤ 60:21 植えし民は日本では 参照59章

彼らは、我が同志アブラハムの子孫なり、わが論理を顕現させる為に植えし民（日本）なり。

エレミヤ 23:7～ 自分たちの土地に住む（日本） 参照エレミヤ 16:14.15

汝ら言うべし、北王国の子孫をアッシリヤから、東の国土（日本）に移し給えるヤアハアヴァーの御業は偉大なりと。

イザヤ 61:3 後段

御論理の高貴偉大を世界に示さす為、御手づから植え給える大義の権の木（日本）と、彼らは尊び称えられる。

イザヤ 61:4

惨憺たる街の復旧の翻訳になっているが、文体上古代に間違えた聖句を日本民族に修復させ給うの意味です。

※聖書の改竄を指摘できる国は日本しかありません。一イスラエルでは大罪、欧米諸国でも異端とされます一

## 藤森三千雄氏 十戒をヘブル語原典から読むと

### 十戒の第1条 出エジプト20:3

汝我面の前に我の外何物をも神とすべからず（文語訳）

あなたには、わたしのほかに、ほかの神々があつてはならない（新改訳）

原典からは「稚拙な預言者に心酔して身を誤るな」となる

証拠

甚だしく遅劣な・From behind.12p,右上.מִרְאַת.....מִלְאָה..17p,左Prophet,預言者を.....נָ.154p,左Not,拒否せよ。!!

153P נָ.汝、自身を・ In Exclamations and Oaths 95p, .מִלְאָה. 改竄

創世記 6:1-4 人地の面に繁衍はじまりて女子之に生るるに及べる時 神の子等人の女子の美しきを見て其好む所の者を取て妻となせり エホバいひたまひけるは我靈永く人と争はじ其は彼も肉なればなり然ど 彼の日は百二十年なるべし 當時地にネピリムありき亦其後神の子輩人の女の所に入りて子女を生しめたりしが其等も勇士にして古昔の名聲ある人なりき（文語）

さて、人が地上にふえ始め、彼らに娘たちが生まれたとき、神の子らは、人の娘たちが、いかにも美しいのを見て、その中から好きな者を選んで、自分たちの妻とした。そこで、主は、「わたしの靈は、永久には人のうちにとどまらないであろう。それは人が肉にすぎないからだ。それで子の齢は、百二十年にしよう」と仰せられた。神の子らが、人の娘たちのところに入り、彼らに子どもができたころ、またその後にも、ネフィリムが地上にいた。これらは、昔の勇士であり、名のある者たちであった。（新改訳）

創世記 6章はギリシャ神話（源はエジプト神話）と一致している

創世記 6章を読むと出エジプト 20章 3節の十戒第1条と矛盾する訳になる。

### 十戒の第2条 出エジプト20:4

汝自己のために何の偶像をも彫むべからず又上は天にある者下は地にある者ならびに地の下の水の中にある者の何の形状をも作るべからず（文語訳）

あなたは、自分のために、偶像を造つてはならぬ。上の天にあるものでも、下の地にあるものでも、地の下の水の中にあるものでも、どんな形をも造つてはならない（新改訳）

原典からは「知識人にして絵画、彫刻を崇拜する人はいない。心の中の偶像に気をつけることが大切である」となる

第2条、4節後段～ 造るべからず（5節の位置はあやまり）之れを～～べからず（此処が5節）我エホバ  
証拠 箴言 四章七節、 97p,.右上.הַמִּזְבֵּחַ.Intelligence, 神の御論理・

310P .הַמִּזְבֵּחַ,左上 The head, 至高の論理なり

エゼキエル 14:4 心の中に偶像を秘め

エゼキエル 20:16 彼の心は偶像を慕っていた

聖書協会発行 幕屋の復元図 ソロモン神殿復元図

ソロモン神殿復元図 至聖所の中のケルビム（智天使）

4.5m黄金色 エジプトのファラオ風像

至聖所に偶像があることになる。

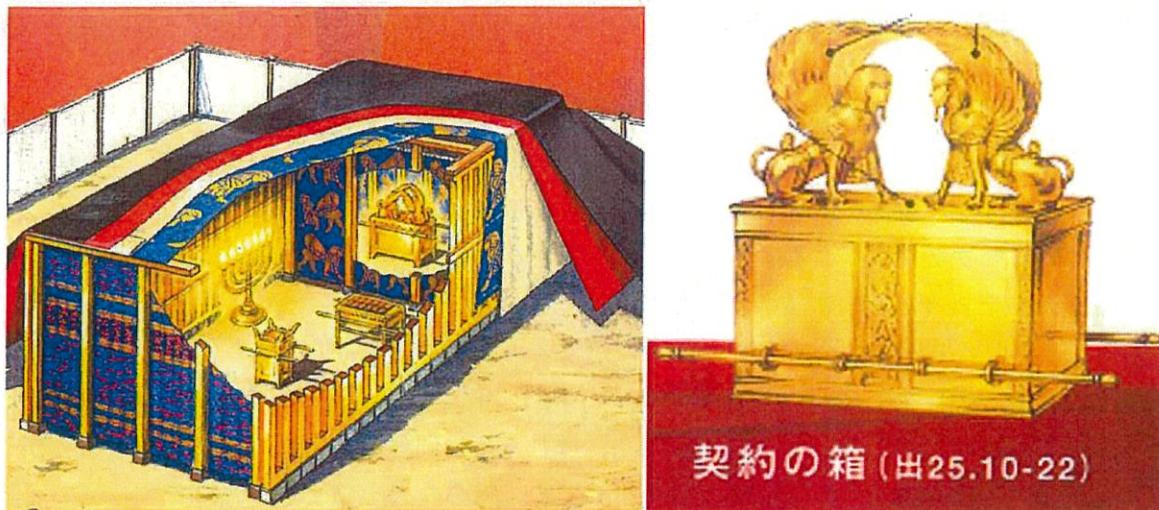
現代聖書においての十戒の第2条の翻訳の 間違いの重大証拠である。

この事実について翻訳の間違いは明らかです。

十戒第2条 偶像の説が間違っている証拠 ユダヤ教幕屋 神殿の至聖所のケルビム  
ケルビムは人の顔、牛の顔、鷲の顔、獅子の顔を持つ（エゼキエル1章）

幕屋 Tabernacle 契約の箱  
額髭付有翼人面獸(ケルビム)

ケルビム 契約の箱（出25.10-22）  
Ark Exodus25:10-22

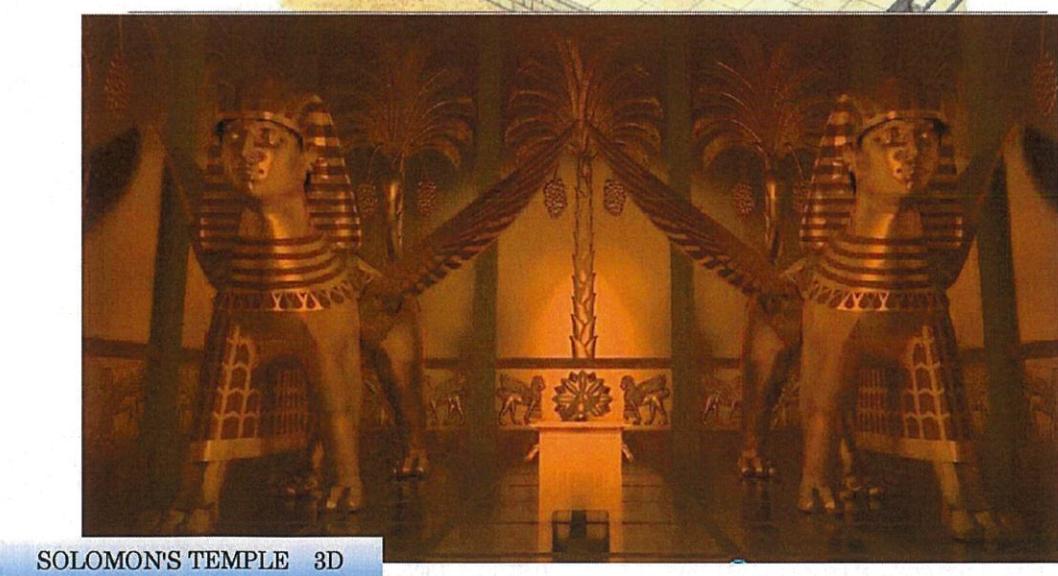


THE PANORAMIC BIBLE  
Japan Bible Society  
パノラミック聖書 日本聖書協会

至聖所

契約の箱（出25.10-22）

高さ4.5Mの黄金色のケルビム



SOLOMON'S TEMPLE 3D

ソロモン神殿3D復元 至聖所のケルビム 真ん中に契約の箱

## 十戒の第3条 出エジプト記20章7節～

## 第参考条、20:7～

אַתָּה תְּחַזֵּק לֹא שָׁמַע לְשׂוֹא כִּילָא יִגְהַד אֶת אֱשָׁר־יִשְׁאָל שָׁמַע לְשׂוֹא אֶת־שָׁמָן  
 NW<sup>n</sup>.328p左下.see,223p,NW<sup>n</sup>.....NW<sup>l</sup>.328p.See.223p,NW<sup>l</sup> = To raise, 然し,224p左中 NW<sup>l</sup> = To be Deceived, To lead astray,

□。原文に無し～NW<sup>l</sup>.NW<sup>l</sup>.改竄・Name・誤り・NW<sup>l</sup>.NW<sup>l</sup>.330p,右中To Establish, (要旨)・御論理を曲げる者を厳しく処罰・!!

文語訳 汝の神 エホバの名を妄りに口にあぐべからず。エホバおのれの名を妄りにあぐる者を罰せではおかざるべし

新改訳 あなたはあなたの神主の御名をみだりに唱えてはならない。

主は御名をみだりに唱える者を罰せずにはおかない。

**原典** 学者が人々を誤った方向に誘導するを許さぬ

方向定められたるを歪曲する者をば厳罰に処するの趣旨

定め給える、を云々ゆえ 330P 石中の OIW to establish (定める)

第2条は5節の定置の場所があえて移動された為、拝むために偶像を造るなどの御趣旨を学者らが一切造ってはならないと読み間違えるように仕組んだ訳です。誠心の人を悩ませる悪事です。

ヘブル語原典聖書を書き間違えたと思われる3カ所を指摘されています。

1つ目に藤森先生はダニエル書9章26節 油そそがれた者メシアという訳を指摘します。ヘブル英語辞書でメシアを引くと、油そそがれた者として祭司、王、族長、キリストと出てきます。しかし、キリストは箴言8章12節によれば天地万物の創造前に創造され、至高神と共に創造者となったお方です。祭司、王、族長のような人間的なお方ではありません。キリストは神と同格同等という『マッシヴァ』と書かれていたのを書き間違えたと思われます。

メシア

マッシヴァ

3番目の文字の差

אֵשֶׁם

אֵשֶׁם וְ

ユッド ヴァヴ

アシメ

アヴ シッマ

4番目の文字の差

メシア マッシヴァ

ヘット つながっている ハー はなれている

メシア

マッシヴァ

200 P

843 P

מָשִׁיחַ (māšî'a) adj., c.  
 מָשִׁיחַ, w.s. מָשִׁיחַ, be-smeared, anointed; an anointed one [priest, king, patriarch]; the Christ, Messiah.

塗られる 油注がれた 祭司 王 族長

מָשִׁיחַ, pt. מָשִׁיחַ, tr. make even, to level, to calm; to set, put, place, lay.—Hi. fut. מָשִׁיחַ, to liken, to

同格 同等

ヘブライ語の文字と発音

アが付く時の発音	文字	文字の名称
ア	אָ	アレフ
バ	בָּ	ベート
ヴァ	בָּ	ヴェート
ガ	גָּ	ギメル
ダ	דָּ	ダレット
ハ	הָ	ヘー
ヴァ	וָ	ヴァヴ
ザ	זָ	ザイン
ハ	חָ	ヘット
タ	תָּ	テット
ヤ	יָ	ユッド
カ	כָּ	カフ
ハ	חָ	ハフ
ラ	לָ	ラメッド
マ	מָ	メム
ナ	נָ	ヌン
サ	סָ	サメフ
ア	אָ	ain
バ	בָּ	ベー
ファ	פָּ	フェー
ツア	צָ	ツァディ
カ	כָּ	クフ
ラ	לָ	レーシュ
シャ	שָׁ	シン
サ	סָ	スィン
タ	תָּ	タヴ

\*クロイツヤは語尾に用いる形。

キリスト メシア 至高神と同格同等のマッシヴァが適切な語です。

2つ目は日本語訳エホバ 世界訳ヤハウエはヤハヴァの書き間違え  
ヤハウエとヤハヴァの差

76P ヤハウエ

92P ヤハヴァ

**הַבְּרִית** (habrith) f., c. תְּבִרֵת, w.s.  
תְּבִרֵת, pl. תְּבִרֵתִים, passion,  
eagerness; destruction, corruption,  
wickedness.

受難 熱血 破壊 腐敗 邪悪

**מִלְאָמָר** (mil'āmār') Pi. fut. מִלְאָמָר  
to announce, relate.  
**מִלְאָמָר** (mil'āmār') l. מִלְאָמָר  
根源 つなぐ

差

1番目 ヤハウエ ヤハヴァ  
→ ハ ハ  
2番 → 1 1

ヤハウエの意味 受難、熱血、破壊、腐敗、邪悪となり、ヤハウエにふさわしくない  
ヤハヴァは根源、つなぐの意味で至高神の名はヤハヴァの方が適切な訳になる

3番目の指摘の前に、ヨハネ福音書4章サマリヤの女とイエスキリストの会話の場面  
間違った為に至高神の原理原則の意図が皆にわからなくなってしまった箇所

4章24節 神は靈ですから 神を礼拝する者は靈とまことによつて礼拝しなければ  
なりません。

ギリシャ語で靈はプネウマ ギリシャ語英語辞典によると

プネウマ ①靈 spirit ② principle 原理原則

principle 信念、信条、行動の基本、根本方針

となっている。

ヨハネ(約)4章24節(・神は靈・) 神の<sup>ラボ</sup>212p,右下.御恩寵による相対の存在・Partnerは・高き認識を要す・・

プネウマ Πνευμα o Θ ε o s = (元訳・神は靈・Is Spirit God,) 然し 367p, 2項 of The Vital Principle, = ..πνύτ =..Perfect Logical System,

~Πνευματικοι. και . αλφηθεια (元訳・Truth,) ~然し 20p, 2項. πνύτ. 126p, To Dispute =・確かめて・・ With one,

(元訳 Worship in Spirit and Truth,) 神、萬事. πνύτに拋り給ふ。拝する者も・πνύτに拋り、且つ、To Dispute・確認 With one,

この箇所の訳は「神は原理原則のお方ですから、神を礼拝する者は神の原理原則を理解してまことを持つて礼拝しなければならない」という訳になります。

さらに22節「救いはユダヤ人から出るのですから。わたしは知つて礼拝していますが、あなた方は知らないで礼拝しています。」

靈=principle 神の原理・原則、根本方針は何でしょうか。

ユダヤ人は知つてゐるが、サマリヤ人は知らない

マタイ福音書5章48節「あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい」とあり、イエスキリストの天の父の原理原則を実行するように命じている。旧約聖書のどこで天

の父の原理原則が語られているでしょうか。

私は3番目に出エジプト3章13、14節 モーセが神の名を聞いて神が答える部分の訳に注目しました。

### 3つ目 私は至福の世界を建ち上げ、永遠に活発に働きつづける者である（至高神の原理原則）

出エジプト3章1節～16節を読むと

3章4節で神は柴の火の中から『モーセ』と彼を呼び、

3章6節「また仰せられた『わたしはあなたの父の神 アブラハムの神 イサクの神 ヤコブの神である』」と御名を宣言「モーセは神を仰ぎ見ることを恐れて顔を隠した」

3章13節「彼ら（イスラエルの人々）がその名は何というのですかとわたしに聞くならば何と答えましょう」3章14節「わたしはあるという者」と答えられた。

その直後

3章15節 神はまたモーセに言われた、「イスラエル人に言え。あなたがたの父祖の神、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神、主が私をあなたがたのところに遣わされたと言え。これが永遠にわたしの名、これが代々にわたってわたしの呼び名である」

3章16節 「行って、イスラエルの長老たちを集めて、彼らに言え。あなたがたの父祖の神、アブラハム、イサク、ヤコブの神、主が、わたしに現れて仰せられた」

となっている。

出エジプト3章13節、14節 モーセが神の名を聞いて、神が答えた箇所

その直前の出エジプト3章6節において「アブラハム、イサク、ヤコブの神となり」と、

7節では「エホバ」（文語訳）と宣言し、名を聞いた直後の15・16節においても「アブラハム、イサク、ヤコブの神エホバ」（文語訳）と宣言しているのに、何故13節で「その名」を尋ねる必要があるのか疑問である。

実は、モーセは「名」ではなく「至高神の意図は何か」（原理原則）を尋ねた。

その答えも誤訳されて至高神の出エジプトの意図がわからなくなっている。

答えは藤森先生訳

私は至福の世界を建ち上げ 永遠に活発に働きつづける者である（これが至高神の原理原則では）

I am the one who set up the world of bliss and continues to work forever

ヘブル語 エイ ヘイヤー アッシェル エイ ヘイヤー

参考辞書 A Complete Hebrew – English Pocket Dictionary To The Old Testament

出エジプト3章14節 「わたしはあるという者です」 英語 I am who I am という訳になっている。

“其の名”のヘブル原語の訳が誤訳されている為に至高神の意図がわからなくなっている。ここがエレミヤ8章8節“書記の偽りの筆”、ルカ11章50-54節“イエスのパリサイ人と律法学者の叱責の箇所”、ヨハネ4章24節“原理原則”、マタイ5章8節“完全”を語られる箇所ではないでしょうか。

理由

指摘① 出エジプト 3 章 13 節 其の名(name)は誤訳 辞書 354P

正しくは 355P 意図(instruction)原理原則 出エジプトの御意図は何かと尋ねた

354	→ תְּנִשֵּׁת	355
תָּםֵל <sup>1</sup> (t̄m̄l) m., w.s. תָּמֵלִי. תָּמֵלָה [t̄m̄lah], pl. תָּמֵלָות, a תְּמִזְבֵּחַ, sign, memorial, token; name, fame, renown; תְּמוֹלֵת the name, essence, honour of God.		תְּמִרְאֵת <sup>1</sup> (t̄m̄r̄et̄) (s̄amm̄a'); תְּמִרְאֵת <sup>2</sup> (s̄am̄'e) Samuel, p.r.n.m. תְּמִרְאֵת, תְּמִרְאֵת <sup>3</sup> (s̄im̄r̄et̄) f., e. תְּמִרְאֵת, pl. תְּמִרְאֵות, a hearing, something heard, report, news, announcement, message, instruction.

*Name, ))*

354P 右下の  
  
 name-of-him

355p.左中 *Message, Instruction,*  
 355 P 左中  
  
 意図は  
 転じて目的は 更に本願は

תְּמִרְאֵת = תְּמִרְאֵת 330p.右中 *To Establish, Erect, To Constitute,* ((改竄 354p.右下書 *Name, ))* תְּמִרְאֵת 355p.左中 *Message, Instruction,*  
 330p.右中 תְּמִרְאֵת の意味には: *Principle* 主義、信念、信条、行動の基準、根本方針、( 御本願、) Etc も含む !!

ヨハネ 4 章 24 節 靈 プネウマ ギリシャ語 靈・Principle (原理原則)

指摘② エイ=22P 右上方 エ I myself 私は…… (為す)

No.2、No.5

エイは我の頭文字

22 P

| תְּמִרְאֵת<sup>1</sup> (əm̄r̄et̄) pron. pers. 1. sing.  
 | I, I myself = תְּמִרְאֵת<sup>2</sup>.

指摘③ ヘイヤー=76、77P Finished 建て上げる、完成する

ある、存在する(exist)ではなく建て上げる (finished)

76P  
  
 תְּבִאֵת (hab̄at̄) inf. תְּבִאֵת, תְּבִאֵת,  
 תְּבִאֵת, תְּבִאֵת, imp. תְּבִאֵת, תְּבִאֵת,  
 תְּבִאֵת, fut. תְּבִאֵת, תְּבִאֵת, תְּבִאֵת,  
 pl. / תְּבִאֵת. to be, to  
exist; to become, to come

存在する

77P  
  
 תְּבִאֵת  
 to pass. — Ni. תְּבִאֵת to be-  
 come, to be done, to be  
 finished, to happen

77

No.3 ヘイヤー

建て上げる

指摘④ アッシュエル 32P Bliss Happiness 至福 幸福（人と人 神と人）

32

**בְּשֶׁרֶת** (b'seret) m, only pl. c.  
**בְּשֶׁרֶת, happiness, bliss;** No.4 Bliss (至福)  
**בְּשֶׁרֶת** happiness of the  
man, i. e. happy is the  
man; **בָּרוּךְךָ** hail to thee,

指摘⑤ エイ 22P エ I myself 我は……（為す）

指摘⑥ ヘイヤー 96P Vigorous (永遠に) 活発に 発展

**בָּרוּךְךָ** (baruch) adj., fpl. **בָּרוּךְ**  
living, vigorous.  
No.6 ヘイヤー 永遠に  
躍動

**バロウ** vigorous 活発  
**バロウ** to live to exist ある  
**バロウ** の差

### 結論

以上の理由・指摘に加えて箴言8章23節「日々喜び 恒に楽しみ」イザヤ書65章18節「新しい天と地を創り喜びとする」と至高神が語られていることを考えると至高神は御名を語られているのに名を聞いたと訳するのはおかしく、間違って訳したと考えます。

「わたしは至福の世界を建ち上げ、永遠に活発に働き続ける者である。」との訳が神の原理原則として正しいと思います。まさに、エレミヤ8章8節の偽りの筆、ルカ11章50-54節イエスのパリサイ人と律法預言者への叱責を思い起こします。

古代日本に辿り着いたユダヤ人について「失われた十部族の足跡」の著者アビグドール・シャハーン教授は、日本人こそ十部族のひとつリーダーのエフライムであると断言されています。イスラエルの帰還省の関連団体である、失われた十部族を探しているアミシャブの代表故ラビ・エリヤフ・アビハイル氏は「規律正しく法を守り、それでいて預言を授ける神の御心である慈愛の心を持った民がエフライムである。京都で信号をきちんと守る日本人を見て、ユダヤ人は信号を守らないが日本人は信号を守っている。あなたがた（日本人）はエフライムの子孫である。」と断言されています。

以上からもイスラエル国歌の東の地シオン（日の出づる国）と言われているのは日本であると、また日本のエルサレム（エルー神、サレーム—平安）は京都（平安京）ではないかと考えます。

この東の地シオンに住むエフライムである日本人が聖書の間違い・意訳を正して世界に発信することで、至高神の預言、イザヤ書2章5節藤森氏訳「日の昇る国、神の栄光を表す国、ヤコブの末裔の住む国は尊い」が成就することになります。ユダヤ人にヘブル語で与えられた旧約聖書をユダヤ人と共に協力して各国語訳聖書を作成する必要があると考えます。

2021.10 桦 浩二

哲学博士・モルドバ国立教育大学名誉教授